

第55期 中間事業報告書

平成12年4月1日～平成12年9月30日

GLORY

グローリー工業株式会社



取締役社長
尾上 壽男

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社第55期上半期（平成12年4月1日から平成12年9月30日まで）の営業の概況等につきましてご報告申し上げます。

営業の概況

全般的概況

当上半期のわが国の経済は、IT産業に代表されるように企業収益は総じて順調であり、景気はゆるやかに回復軌道に乗り始めました。一方、雇用情勢は依然として厳しく個人消費も本格的な回復には今しばらく時間がかかるものと思われま

す。このような一般景況のなかで、当社の関連市場である金融業界につきましては、大手銀行を中心とした合併・統合等、徹底した構造改革が強力におし進められているため、合理化投資に対する需要が堅調に推移いたしました。さらに、特別需要として2000円札、新500円硬貨の発行に伴う買い替え需要、改造需要が発生いたしました。流通業界につきましては、スーパー・百貨店等の企業収益は伸び悩んだものの、合理化

投資の需要が見られたため順調に推移いたしました。また、自動販売機、自動サービス機器の市場につきましては、前期に引き続きカード化等の進展で、遊技業界は比較的順調に推移いたしました。また、市場成熟化が進む環境のなかで、たばこ販売機も堅調な需要がありました。

このような環境下において当社は、各市場におけるきめ細かなニーズに迅速に対応すべく新技術の研究と新製品開発を積極的に推進するとともに、開発・設計業務や生産の合理化・効率化に取り組んでまいりました。さらに、新500円硬貨および新しく発行された2000円札の対応につきましても万全を期してまいりました。この結果、当上半期の売上高は460億6千8百万円（前年同期比54.2%増）となりました。このうち、国内の売上高は426億2千3百万円（前年同期比57.2%増）、輸出の売上高は34億4千4百万円（前年同期比25.0%増）となりました。利益につきましては、新500円硬貨および新しく発行された2000円札の対応に伴う開発費用は増えましたが、コストダウン活動や一般経費の節減など全社を挙げて経営体質の改善に傾注した結果、売上原価率が大幅に改善し、経常利益は84億1千7百万円（前年同期比439.8%増）となりました。中間利益につきましては、退職給付会計の実施に伴う会計基準変更時差異の一括償却実施により12億2百万円を特別損失に計上するなど、特別損失は増加しましたが、36億5千5百万円（前年同期比444.0%増）となりました。なお、中間配当金につきましては、1株につき8円とさせていただきます。



金融機関の合理化に貢献
ランチステーションシステムWAVE 100FNS

部門別概況

売上高を部門別にみますと次のとおりであります。

貨幣処理機部門



当部門は、国内につきましては、偽造硬貨識別対策の機能を有する硬貨包装机や合理化に対する根強い需要のあるオープン出納システムの構成機器である紙幣整理機等は、新500円硬貨および2000円札の発行に伴う買い替え需要とあいまって、販

売は大幅に増加いたしました。さらに、流通業界向けの機器である小型入金機や警備保障会社向けの機器である売上金入金機の需要も総じて堅調でありました。輸出につきましては、アジア、中南米、米国向けの紙幣計算機の販売は減少いたしました。米国、欧州向けの硬貨包装机や紙幣整理機、米国向けの入金機は順調に増加いたしました。この結果、当部門の売上高は139億8千9百万円（前年同期比36.3%増）となりました。

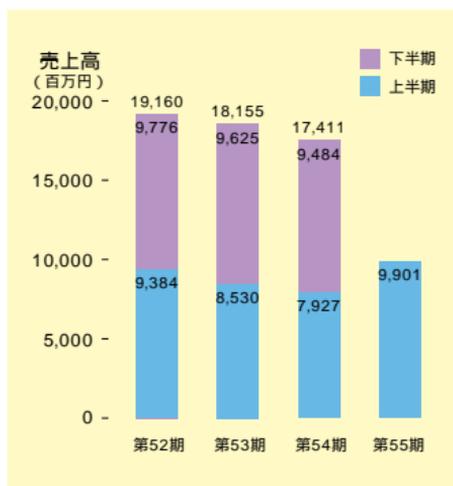


偽造・変造硬貨を排除、好評の硬貨自動包装机 WM 330

情報処理機及び貨幣端末機器部門

当部門は、国内につきましては、金融機関向けの窓口周辺機器である循環式の紙幣入出金機や硬貨入出金機および新製品であるローカウンターにも収まる紙幣・硬貨一体型入出金機等の販売は順調に増加いたしました。

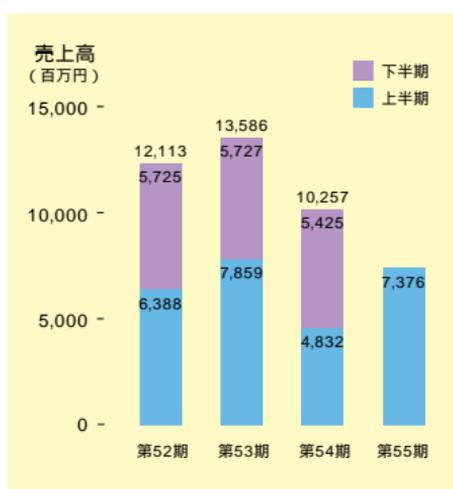
さらに、ATM(現金自動預け払い機)搭載の硬貨入出金機の販売も堅調でありました。輸出につきましては、欧州、米国向けの紙幣放出装置の販売は減少いたしました。欧州向けの紙幣受入装置は自動化・機械化の進展により大幅に増加いたしました。この結果、当部門の売上高は99億1百万円(前年同期比24.9%増)となりました。



自動販売機部門

当部門は、遊技業界に明るさが見え始め需要が増えたことにより、カード販売機や玉貸し機・メダル貸し機の販売は大幅に増加いたしました。また、たばこ販売機につきましても、特定たばこメーカーの需要の増加により、販売は順調に増加い

いたしました。この結果、当部門の売上高は73億7千6百万円(前年同期比52.7%増)となりました。



自動サービス機器部門

当部門は、金融機関や流通業界向けの多能式紙幣両替機につきましては、新500円硬貨および2000円札の発行に伴う買い替え需要と新製品の市場投入による需要の喚起で、販売は大幅に増加いたしました。また、遊技業界の関連機器であるカード処理機や景品管理ターミナル等の販売も大幅に増加いたしました。この結果、当部門の売上高は67億4千6百万円（前年同期比125.1%増）となりました。



2000円札・新500円硬貨対応モデル
多能式紙幣両替機 EN 100

その他部門



当部門は、主にサービス・修理用部品であります。新500円硬貨および2000円札の発行に伴う市場機の改造需要により、販売は大幅に拡大いたしました。

この結果、当部門の売上高は80億5千4百万円（前年同期比109.3%増）となりました。

会社が対応すべき課題

当社をとりまく環境につきましては、最大市場である金融業界は、金融機関の店舗統廃合が本格化することが予想されるだけに、厳しい展開が続くと思われませんが、合理化投資に対する根強い需要と買い替え需要が期待できます。当社といたしましては、これまで核事業としてまいりました貨幣処理システム事業の一層の競争力強化に加え、今後成長が期待される非貨幣関連のドキュメントプロセッシング事業、電子決済関連機器事業およびシステムソフト事業の拡大を図ることによって、お客様のトータルソリューションに貢献できる新しい価値創造に努めてまいりたいと考えております。また、流通業界におきましては、デビットカードのさらなる実用化等、新たな市場の動きが始めております。当社といたしましては、これまでの貨幣処理技術に情報技術を融合させることによって、これらの変化を的確に捉え、事業拡大につなげてまいりたいと考えております。次に、自動販売機市場ですが、たばこ販売機につきましては、市場は成熟期にあり、価格競争が一層厳しくなることが想定されます。当社といたしましては、トップシェアの利点を活かした新製品の投入により、より一層のシェアアップに努める所存であります。一方、遊技業界につきましては、カード化対応への投資および顧客管理システムへの投資が引き続き堅調であります。このような中で市場ニーズを的確に捉えたシステム提案を行っていくと同時に、グループ総力の結集により市場でのプレゼンスを高めてまいりたいと考えております。また、2000円札および新500円硬貨につきましても、引き続きお客様の要望に対し万全を期して対応していく所存であります。このように、環境変化へのより迅速かつ的確な対応に努め、グループの利益の向上を図り、株主の皆様のご期待に応える所存であります。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成12年12月

中間貸借対照表

科 目	金額 百万円					
	前年中間期 (11.9.30現在)		当 中間期 (12.9.30現在)		前 期 (12.3.31現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
[資産の部]						
流 動 資 産	61,077	65.1	73,458	64.7	59,273	59.5
現金及び預金	26,024		22,895		21,705	
受取手形	66		48		72	
売掛金	18,894		30,209		21,927	
有価証券	657		979		958	
自己株式	0		2		1	
製品	5,855		5,873		5,858	
材料	7		16		9	
部品	1,805		2,737		1,936	
仕掛品	6,566		9,044		5,893	
貯蔵品	36		5		5	
短期貸付金	41		41		41	
繰延税金資産	422		922		412	
その他流動資産	792		799		556	
貸倒引当金	95		118		105	
固 定 資 産	32,755	34.9	40,133	35.3	40,321	40.5
有形固定資産	21,711	23.1	21,005	18.5	21,448	21.6
建築物	8,425		7,887		8,143	
構築物	414		379		393	
機械及び装置	1,682		1,472		1,561	
車両及び運搬具	39		41		39	
工具器具及び備品	2,946		3,023		3,094	
土地	8,186		8,177		8,177	
建設仮勘定	17		23		37	
無形固定資産	1,589	1.7	1,512	1.3	1,814	1.8
ソフトウェア	1,561		1,486		1,787	
その他無形固定資産	28		25		26	
投 資 等	9,454	10.1	17,616	15.5	17,059	17.1
投資有価証券	5,669		6,244		5,443	
子会社株式	1,636		8,723		8,723	
子会社出資金	63		63		63	
長期貸付金	147		99		124	
長期前払費用	102		110		104	
繰延税金資産	363		1,215		1,054	
その他投資等	1,471		1,159		1,545	
貸倒引当金	0		0		0	
資 産 合 計	93,832	100.0	113,592	100.0	99,595	100.0

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

- | | (前年中間期) | (当中間期) | (前 期) |
|---|-----------|-----------|-----------|
| 2. 子会社に対する短期金銭債権 | 14,881百万円 | 24,445百万円 | 17,247百万円 |
| 長期金銭債権 | 131百万円 | 90百万円 | 110百万円 |
| 短期金銭債務 | 1,229百万円 | 1,939百万円 | 1,608百万円 |
| 3. 有形固定資産の減価償却累計額 | 29,830百万円 | 31,102百万円 | 30,587百万円 |
| 4. 貸借対照表に計上した固定資産のほか、電子計算機及びその周辺機器の主要部分についてはリース契約により使用しております。 | | | |

科 目		金額 百万円					
	前年中間期 (11.9.30現在)		当 中間 期 (12.9.30現在)		前 期 (12.3.31現在)		
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	
[負債の部]							
流 動 負 債	23,423	25.0	30,003	26.4	20,726	20.8	
支 払 手 形	3,414		6,455		3,586		
買 掛 金	4,819		9,256		5,679		
短 期 借 入 金	6,240		5,925		6,240		
1年以内償還予定社債	5,000		-		-		
未 払 金	1,276		2,278		1,738		
未 払 法 人 税 等	558		3,573		1,196		
未 払 費 用	515		380		378		
預 り 金	42		134		42		
前 受 収 益	3		-		-		
賞 与 引 当 金	1,372		1,683		1,355		
設 備 支 払 手 形	180		310		504		
そ の 他 流 動 負 債	0		5		4		
固 定 負 債	1,438	1.5	3,765	3.3	2,818	2.8	
長 期 借 入 金	115		-		-		
退職給付(与)引当金	595		3,396		2,078		
役員退職引当金	727		368		740		
そ の 他 固 定 負 債	-		0		-		
負 債 合 計	24,861	26.5	33,768	29.7	23,544	23.6	
[資本の部]							
資 本 金	12,738	13.6	12,892	11.4	12,892	13.0	
法 定 準 備 金	15,391	16.4	22,342	19.7	22,304	22.4	
資 本 準 備 金	12,207		19,119		19,119		
利 益 準 備 金	3,184		3,223		3,184		
剰 余 金	40,841	43.5	44,098	38.8	40,853	41.0	
配 当 準 備 積 立 金	3,000		3,000		3,000		
試 験 研 究 基 金	2,000		2,000		2,000		
特 別 償 却 準 備 金	-		32		-		
別 途 積 立 金	32,800		33,400		32,800		
中 間 (当 期) 未 処 分 利 益	3,041		5,665		3,053		
(うち中間(当期)利益)	(672)		(3,665)		(962)		
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	-		489	0.4	-		
資 本 合 計	68,971	73.5	79,823	70.3	76,050	76.4	
負 債 及 び 資 本 合 計	93,832	100.0	113,592	100.0	99,595	100.0	

5. 重要な外貨建資産 子会社株式	(前年中間期) 378百万円 (1,106千米ドル他)	(当中間期) 398百万円 (1,340千米ドル他)	(前 期) 398百万円 (1,340千米ドル他)
6. 保 証 債 務 額	161百万円	143百万円	147百万円
7. 1株当たりの中間(当期)利益	19円35銭	96円67銭	27円49銭

中間損益計算書

科 目		金額 百万円					
		前年中間期 (自11.4.1至11.9.30)		当 中 間 期 (自12.4.1至12.9.30)		前 期 (自11.4.1至12.3.31)	
		金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比
経常損益の部	営業収益	29,867	100.0	46,068	100.0	65,545	100.0
	売上高	29,867		46,068		65,545	
	営業費用	28,605	95.8	37,874	82.2	61,374	93.6
	売上原価	25,204	84.4	34,168	74.2	54,650	83.4
	販売費及び一般管理費	3,400	11.4	3,705	8.0	6,724	10.2
	営業利益	1,262	4.2	8,194	17.8	4,170	6.4
	営業外収益	804	2.7	499	1.1	951	1.4
	受取利息	31		26		69	
	受取配当金	116		172		138	
	有価証券評価益	370		-		144	
	雑収入	285		301		599	
	営業外費用	507	1.7	276	0.6	1,241	1.9
	支払利息	37		33		73	
	社債利息	136		-		266	
雑損失	332		242		900		
経常利益	1,559	5.2	8,417	18.3	3,880	5.9	
特別損益の部	特別利益	37	0.1	-	-	60	0.1
	固定資産売却益	-		-		12	
	貸倒引当金戻入額	37		-		27	
	子会社株式売却益	-		-		20	
	特別損失	469	1.5	2,186	4.8	2,185	3.3
	固定資産処分損	48		836		110	
	過年度研究開発費	421		-		586	
	過年度退職給付与引当金繰入額 その他の特別損失	-		1,202		1,487	
-	-		147		-		
税引前中間(当期)利益	1,127	3.8	6,231	13.5	1,756	2.7	
法人税、住民税及び事業税	580	1.9	3,600	7.8	1,600	2.4	
法人税等調整額	124	0.4	1,024	2.2	806	1.2	
中間(当期)利益	672	2.3	3,655	7.9	962	1.5	
前期繰越利益	1,708		2,010		1,708		
過年度税効果調整額	661		-		661		
中間配当額	-		-		277		
中間(当期)末処分利益	3,041		5,665		3,053		

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

	(前年中間期)	(当中間期)	(前期)
2. 子会社との取引高			
売上高	24,840百万円	39,977百万円	54,639百万円
仕入高	6,831百万円	10,711百万円	14,945百万円
営業取引以外の取引高	650百万円	629百万円	1,251百万円

コンビニエンスストア等で威力を発揮

超小型紙幣レジ釣銭機 RAD-S1

グッドデザイン賞受賞



超小型紙幣レジ釣銭機 RAD-S1 が、
財団法人日本産業デザイン振興会主催、
通商産業省等後援の
00「グッドデザイン賞」を受賞いたしました。

* 世界最小・最速
技術と信頼性の現れたデザイン

* 使い手を最優先に考えて生まれた
使用環境への配慮あるデザイン

* 人にやさしい色彩
美しく魅力的なフォルム

* 昨年同賞を受賞したRT・10を含めた
シリーズとしての発展性とまとまりの美しさ
などが評価されました。

「グッドデザイン賞」は、
1957年に通産省によって設立された表彰制度で、
1998年度に新たに「グッドデザイン賞事業」として
スタートした総合的なデザイン評価制度です。

あなたの指紋が鍵になる。

確実な本人認証で、あなたの生活を守ります。



住宅玄関用指紋錠 フィンガーロック

指紋錠 フィンガーロック は、グローリーの紙幣や硬貨を識別する技術を指紋照合に応用し、ロックの総合メーカー株式会社アルファとの共同開発で生まれた指紋電子錠です。

指紋が鍵がわりなので、紛失の心配・鍵の携帯など、従来のわずらわしさから開放されます。また、紛失や偽

造などの心配もありません。

また精度につきましても、業界初の新方式を採用したことにより、誤認のない確実な他人排除と本人照合を実現いたしました。確認時間も最短で1秒と、スピーディーで簡単。一戸建て住宅をはじめ、集合住宅の戸別玄関ドアに取付けが可能です。

量販店の売上金受付ステーション

店舗全体の入金・精算業務の管理体制をグレードアップ。

各売り場担当者自身によるダイレクト入金体制の構築で、量販店での入金・精算業務のありかたを大きく変えてきた、量販店向け小型入金機 DSシリーズ が、お客様の声に添えて、さらにパワーアップいたしました。

売り場担当者は、売上金を各入金部にセットし、IDカー

ドを通すだけ。あとは一括自動計数し、計数結果を画面に表示します。

また、1台を親機として、15台の子機を接続できるので、一元的なデータ管理が、手間なく効率的に行えます。店舗全体の業務効率の改善と売上金早期確定を強力に推進する入金・精算ステーションです。



量販店向け小型入金機 DS 500

——— 貨幣と共に歩み続けて50年 ———

おかげさまで 日本品質奨励賞受賞。

昭和59年のTQCの本格導入以来築き上げてきた土台を元に、
この8年間、品質とコストを維持しながら、
開発期間を大幅に短縮する新製品開発システムづくりに
全社一丸となって挑戦。

その成果がいま大きく実を結びました。

しかしこれは新たなスタートです。

グローリーにいま課せられた真の使命は、
ニーズにスピーディーに応える新しい価値の創造。

これからも、「きらりと光る技術・製品」の

開発に向けて努力を続け、

より一層光り続ける企業でありたいと考えております。

「日本品質奨励賞」は、財団法人日本科学技術連盟により
今年から創設された表彰制度です。

デミング賞のながれを継承したこの賞は、

品質マネジメント・システム内の

革新的な技術開発に対して表彰することにより、

広く社会にその品質マネジメントを

発展させていくことを目的としたものです。

株式の状況

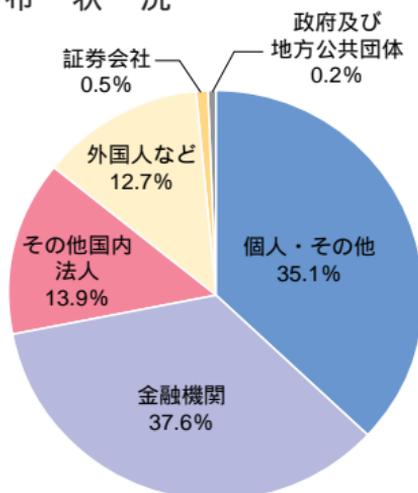
平成12年9月30日現在

会社が発行する株式の総数	130,000,000株
発行済株式の総数	37,820,205株
株主数	3,902名 (前期末比170名増)

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本生命保険相互会社	2,094	5.5
龍田紡績株式会社	1,969	5.2
株式会社さくら銀行	1,641	4.3
有限会社オノエインターナショナル	1,100	2.9
有限会社ウイニング	1,000	2.6
グローリーグループ社員持株会	990	2.6
株式会社住友銀行	904	2.4
株式会社三和銀行	904	2.4
エイチエスピーシーバンクピーエルシー クライアントズユーケータックストリーティー	889	2.4
第一生命保険相互会社	858	2.3

株式分布状況



会社の概要

平成12年9月30日現在

商号	グローリー工業株式会社 GLORY LTD.
設立	昭和19年11月27日
資本金	12,892,947,600円

事業所

- 本社 〒670 8567
兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号
TEL(0792)97 3131(代表)
FAX(0792)94 6233
ホームページ <http://www.glory.co.jp>
- 東京本部 〒141 8581
東京都品川区大崎五丁目4番6号
TEL(03)3495 6301(代表)
- 埼玉工場 〒347 0004
埼玉県加須市古川二丁目4番地1
TEL(0480)68 4661(代表)

従業員の状況

従業員数	男性	女性	合計
	1,441名	325名	1,766名

役員

*取締役社長	尾上 壽男	取締役	船引 祐一
*取締役副社長	西野 秀人	取締役	橋本 浩一
専務取締役	尾上 勝彦	取締役	尾上 佳雄
専務取締役	村上 雅俊	取締役	龍田 信也
常務取締役	大上 邦弘	常勤監査役	有吉 透
常務取締役	牛尾 允俊	常勤監査役	上羽 昭夫
取締役	浦川 輝三	監査役	八幡 尚弘
取締役	松岡 則重	監査役	安平 和彦
取締役	松下 秀明		

*印は、代表取締役であります。

株主メモ

決算日	3月31日
定時株主総会	6月中
1単位の株式の数	1,000株
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人 同事務取扱場所	株式会社だいこう証券ビジネス 〒541 8583 大阪府中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部 TEL(06)6203 1751(代表)
同取次所	株式会社だいこう証券ビジネス 全国各支社
単位未満株式の 買取請求	単位未満株式(1,000株未満の株式)の買取請求は、名義書換代理人にてお取り扱いしております。株券の保管振替制度を利用して預託された単位未満株式の買取請求は、預託窓口の証券会社を通じてお申し出下さい。

GLORY

<http://www.glory.co.jp>